

豊かな想像（創造）力を養うためのラジオ、演劇ワークショップ

社会福祉法人 訪問の家 地域活動ホーム連

〒241-0835 神奈川県横浜市旭区柏町 59-2

助成事業の概要

施設の職員が「想像力（創造力）」を用いて、目の前の利用者の「人となり」や「表現」を大切にする事を目的に事業を開催しました。アサダワタル氏による「れんらじお」を年間 4 回、倉品淳子氏による「劇団れん」を年間 7 回実施しました。どちらのワークショップも地域住民に向けて公開、パフォーマンスすることを一つの目標にし取り組んできました。「れんらじお」は昨年同様 3 月に南万騎が原駅前の貸しスペース「みなまきラボ」にて施設の作品展とコラボレーションする形で開催し、作品を通じた「表現」を施設内のみならず、地域住民に向けて発信する機会としました。「劇団れん」ワークショップでは、12 月 6 日の旭区の啓発イベント内で舞台パフォーマンスを行なう事に向けて実施し、施設の利用者の発言に着想を得た、「はまテレビプレゼンツ 連チャンネル テレビジョン クッキーのCMもあるよ」と言う演目を披露しました。日々のワークショップでの各利用者の表現を元にした演目で、利用者各自が主体となり取り組んだため、当日は利用者がアドリブを演じる等、楽しんで主体的に参加する姿が見られました。

事業の成果

【れんらじお】

南万騎が原駅前のスペースで公開をした「れんらじお」では「今年もやってるのね」等、昨年に引き続き来場くださる地域住民の方もいらっしゃる

など、より理解が深まったイベントにできたと感じました。

年間 4 回の取り組みの中では、重症心身障害者と言われるような、言葉を使ったコミュニケーションを取らない利用者さんにも必ずスポットを当てる事を行ないました。好きな音楽や、好きな動作を通じ表現することで改めてその利用者さんの好きなものや興味関心に着目できる機会となりました。

加えて、外出先や行ってみたいところを話し合う番組作りも行い、直接支援の現場では利用者さん現実的なお出かけ先を口にすることも少なくない中、そういった場面では話に上がりにくいような外出先（北海道）も口にしたり、実際にパソコン画面越しに見てみる機会も作りました。

【劇団れん】

年間 7 回の演劇ワークショップを開催しました。倉品氏のファシリテートの元、各利用者が好きな動きや言葉を表現するところから始め、おもしろそうな表現をピックアップしそれについて掘り下げる過程を通して、一つのシーンを作成します。例えば、利用者が「近未来的なモノ」と発言した事に対して話を掘り下げると「A I」や「A I と言ったら対話」と言ったように関連する言葉を各自から集めます。

その集まった言葉を要約しながら利用者と一緒に各自が納得できるストーリーを作成し演じています。

利用者各自においては、自身の発言した言葉や表現がそのままシーンになったりするので、1 か月

後のワークショップでもそのことをよく覚えており、実際の演劇の中での再現性も高まる傾向があります。

ワークショップ事業の目的の一つ、意思決定支援においては「自分の言った事が受け入れられ、認められる」と言う事が非常に重要と考えます。演劇ワークショップを通じて、意思決定支援のプロセスの体験や、具体的な取り組みについても理解を深める事が出来ました。

成果の広報・公表

駅前の貸しスペースでの作品展とコラボレーションした公開ラジオワークショップや、年 1 回の啓発イベントでの演劇の舞台パフォーマンスを引き続き実施しました。

どちらも事前に SNS やポスター等で周知宣伝を行ない多数の来場者にふれて頂く機会となりました。

加えて、今年度は「れんらじお」での障害のある方の表現活動や支援現場の実践として、立教大学コミュニティ福祉学部の授業にてゲストスピーカーとして活動を報告・講義する機会も頂き、障害のある方の意思決定支援の実際を、これから就職を考える学生にも知ってもらう機会にする事が出来ました。学生からの感想の中にも、実際の現場の実践を知ることができて良かった、障害福祉に対するイメージが変わった等、福祉現場での実践を知らない層に向けて理解を促すと共に、次世代を担う人材確保のためのアピールができる機会になったと感じています。

今後の展開

当初、予定していた記録冊子の作成を年度内に終わることが出来ませんでした。

今後の展望としては、内部での積み重ねはもちろ

んですが、施設外の人たちにもこの活動の事やその意義の理解を促す場づくりを行ないたいと考えています。記録冊子はその為に必要なツールであると考え、これまで数年間の取り組みや障害福祉現場での意思決定支援に着目したワークショップ事業と言う事を写真やテキストを用いて表現する媒体とし、このような形のワークショップも職員研修になり得ることも訴えかけて行きたいと考えています。

具体的には地域自立支援協議会のネットワークを活かした発信の機会や、ファシリテーターをお願いしているアサダワタル氏や倉品淳子氏との連携による発信、周知宣伝を検討していきたいと考えています。それを通じて、アーティストと連携したワークショップ事業を行ないたいと考えている事業所を増やしたり、実際に当施設で行なっている事業に参加してもらうなどを実現していきたいと考えています。